

「熱中症予防対策に資する効果的な情報発信に関する検討会」の開催について

環境省・気象庁

1. 背景

近年、熱中症搬送者数が著しい増加傾向にあり、国民生活に大きな影響を及ぼしている。気候変動の影響を考慮すると、今後も、熱中症による死亡者 1500 人超を出した平成 30 年の夏のような災害級とも言える暑さが予想され、熱中症対策は気候変動への適応の観点からも極めて重要である。

これまで、気象庁の高温注意情報や環境省の暑さ指数（WBGT）によって国民に注意を呼びかけてきており、「熱中症」への対策についての意識は高まってきていると思われる。一方、熱中症による死亡者数や救急搬送人員数は引き続き多い状態が続いていることから、国としてどのように情報を発信し、国民の効果的な行動に繋げるかが課題となっている。

2. 趣旨

そこで、環境省・気象庁が連携して、熱中症の予防と対策に関する情報を国民に向けて効果的に発信することで、国民への注意喚起を強化し、熱中症予防のための行動に繋げることを目指す。

そのため、専門家や報道関係機関等の有識者で構成された「熱中症予防対策に資する効果的な情報発信に関する検討会」を環境省と気象庁で共同開催し、熱中症予防対策に係る効果的な情報発信について検討する。

3. 検討会構成委員（敬称略）（◎：座長）

- 朝比奈徳洋 株式会社セレスポ執行役員事業支援部副部長
井田 寛子 気象予報士
井上 保介 総合大雄会病院副院長救命救急センター救命救急科
◎小野 雅司 国立環境研究所環境リスク・健康研究センター客員研究員
川原 貴 日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会委員長
日下 博幸 筑波大学計算科学研究センター教授
戸田 芳雄 学校安全教育研究所 代表
中井 誠一 京都女子大学名誉教授
橋爪 尚泰 日本放送協会報道局災害・気象センター長
堀江 正知 産業医科大学産業生態科学研究所所長 教授
松尾 良太 一般社団法人日本イベント産業振興協会常務理事(兼)事務局長
松本 吉郎 公益社団法人日本医師会 常任理事
松本 孝朗 中京大学スポーツ科学部スポーツ健康科学科教授
三宅 康史 帝京大学医学部救急医学講座教授・附属病院救命救急センター長
目々澤 肇 東京都医師会理事（目々澤醫院院長）

(※委員は、今後、必要に応じて追加がありうる)

4. 検討事項(案)

- ①熱中症予防対策に係る現在の情報発信の課題
- ②熱中症予防対策に係る効果的な情報発信案
- ③情報が発表された場合に期待される具体的な予防対応行動

5. 熱中症対策のための新たな情報発信に係るスケジュール(予定)

検討会での議論を踏まえ、新たな情報発信について、令和2年夏に一部地域で先行的に実施し、その結果の検証を実施した上で、令和3年夏に全国で本格実施する予定。

6. 事務局

本検討会の事務は、環境省と気象庁が共同で行う。

(以上)